

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-2-2		事業名	市民健康づくりサポート事業
担当	保健福祉局保健所健康企画課 石川 622-5151			
全体計画				
事業内容	平成20年度の医療制度改革に向けたメタボリックシンドローム対策に重点をおき、市民一人ひとりの健康づくりを支援する。 (1)メタボリック周知のための啓発事業:チラシやパンフレット等によりメタボリックについての啓発を行う。 (2)働き盛りの健康づくり事業:運動習慣の少ない30代~50代に対して運動の必要性について普及を進め健康チェックの実施も含めた運動支援を行う。 (3)冬の健康づくり事業:運動不足になる冬期間、スノーシューなどによる健康づくり事業を行う。 (4)ウォーキング実践指導ボランティア研修事業:地域で自主的、継続的にウォーキングに取り組むボランティアの育成、研修を行う。 (5)市民が健康づくりに取り組むための環境整備:各区のウォーキングマップを含めたウォーキング情報などの集約やインターネット(「さっぽろウォーキング」)による運動支援の充実を行う。		<年度別の事業内容>	
			19年~22年 (1)メタボリック周知のための啓発事業 (2)働き盛りの健康づくり事業 (3)冬の健康づくり事業 (4)ウォーキング実践指導ボランティア研修事業 (5)さっぽろウォーキングの維持・管理	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	<p>(1)メタボリック周知のための啓発事業:市民の健康課題や改善に向けた具体的な取り組み(運動・栄養・休養・禁煙・健診受診など)についての情報提供。啓発用チラシ・リーフレットの作成 ホームページの充実 748千円</p> <p>(2)働き盛りの健康づくり事業:運動不足・肥満の解消が課題となっている30~50歳代を対象に、ライフコーダ(生活習慣記録機)を利用した運動実技を行い、運動習慣の定着の支援。平成20年1月~3月 3回開催(参加者40名) 委託料 839千円</p> <p>(3)冬の健康づくり事業:冬の運動不足解消のためのノルディックウォーキング・スノーシューの体験。平成20年1月に4回開催(5回開催予定だったが1回は悪天候のため中止)参加者95人 委託料 1,331千円</p> <p>(4)ウォーキング実践指導ボランティア研修:誰でも気軽に取り組めるウォーキングを市民に広く普及するためのボランティアを育成するための研修と交流会の実施。 平成20年3月開催(各区から5名推薦)参加者43名 委託料 166千円</p> <p>(5)ITを活用した「さっぽろウォーキング」の充実:市民が実際に歩いた歩数をインターネットで登録し、市内、道内、札幌市の姉妹都市を目指し運動習慣の定着を図る。(総距離11,700キロ) 委託料 2,100千円</p> <p>(6)その他 事務費等 172千円</p>		<p>(1)メタボリックシンドローム予防普及啓発 啓発用チラシ・リーフレット 260千円</p> <p>(2)働き盛りの健康づくり事業 職域との連携により30代~50代への運動支援事業 委託料 889千円</p> <p>(3)冬の健康づくり事業 市内の身近な公園などを拠点とした冬の健康づくりのための運動体験事業 委託料 1,398千円</p> <p>(4)ウォーキング実践指導ボランティア研修 ウォーキングを市民に広く普及するためのボランティアの研修、交流会の開催。 委託料 200千円</p> <p>(5)「さっぽろウォーキング」の維持・管理費 252千円</p> <p>(6)その他 事務費等 20千円</p>	
事業内容	平成21年度事業内容(予算)		平成22年度事業内容(予算)	
	<p>(1)メタボリックシンドローム予防普及啓発 啓発用チラシ・リーフレット 250千円</p> <p>(2)働き盛りの健康づくり事業 職域との連携により30代~50代への運動支援事業 委託料 1,000千円</p> <p>(3)冬の健康づくり事業 市内の身近な公園などを拠点とした冬の健康づくりのための運動体験事業 委託料 1,300千円</p> <p>(4)ウォーキング実践指導ボランティア研修 ウォーキングを市民に広く普及するためのボランティアの研修、交流会の開催。 委託料 600千円</p> <p>(5)「さっぽろウォーキング」の維持・管理費 350千円</p>			
規模				
件数				
等				

## 平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	5-2-2			事業名	市民健康づくりサポート事業		
<b>達成目標の状況</b>							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
ウォーキング実践指導ボランティアの育成人数 (累計)	-	43人	106人	156人	206人	200人	
<b>市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)</b>							
<p>市民との連携、市民参加 市民参加ということでは、「ウォーキング実践指導ボランティア研修」受講者の企画・運営による全市的なウォーキング大会の開催を行い、自主的なウォーキング活動の広がりが期待できる。</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 全市的なウォーキング大会、「冬の健康づくり事業」においては、民間企業の協賛をうけ参加者への健康グッズや飲料水の提供を行った。 [人材協力] 「ウォーキング実践指導ボランティア研修」受講者の企画による全市的なウォーキング大会においては、NPO法人や民間企業との連携協働としている。 [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり ITを活用した「さっぽろウォーキング」は、各区のウォーキングマップと連動しており、携帯からもアクセスできるため年代を問わず参加しやすいしくみとなっている。</p>							
<b>評価(成果)</b>			<b>課題</b>				
<p>生活習慣病予防のための運動の必要性や具体的な方法を広く市民に普及し、メタボリックシンドローム予備軍も含めた事業を行った。 地域の自主活動グループとの連携により全市的なウォーキング大会を開催した。 各区のウォーキングマップと連動させたインターネットによる「さっぽろウォーキング」を充実させることができ、気軽に楽しくウォーキングを実践する環境を整備した。</p>			<p>生活習慣病予防のため健康づくり活動をさらに広げていくためには、多くの企業や関係団体などと連携協働し、若い世代も含めた働きかけを行っていくことが必要である。</p>				
<b>今後の事業の予定・方向</b>							
<p>「働き盛りの健康づくり事業」は、就労者への周知方法を民間企業を含めた職域と協議できる体制を整備し、将来的には職域が中心となり健康づくり事業を展開できるよう働きかけていきたいと考えている。 「冬の健康づくり事業」は、冬期間の運動不足解消方法を市民に伝えていくと共に、実施にあたっては関係部署や関係機関・団体、民間企業などとも連携協働を目指していく。 「ウォーキング実践指導ボランティア研修事業」では、各区からの受講者の健康づくりに対する意識の向上を図り、受講者が中心となった全市的なウォーキング大会の企画実施に向け支援していく。さらにこのウォーキング大会を関係機関やNPO法人、民間企業などを加えて行っていくことにより、全市的なウォーキングの普及を図っていく。 ITを利用した「さっぽろウォーキング」については、若い世代を含めた多くの方の利用を進めるため今後も関係機関と協力し積極的なPRを行う。</p>							

## 平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		5-2-2			事業名	市民健康づくりサポート事業				
事業費の推移										
項目				19年度	20年度	21年度	22年度	計		
計画	事業費			8,000	3,500	3,500	3,000	18,000		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0	0	0		
		市	債	0	0	0	0	0		
		その他		0	0	0	0	0		
		一般財源		8,000	3,500	3,500	3,000	18,000		
予算	事業費			8,000	3,500	3,500	-	15,000		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0	0		0		
		市	債	0	0	0		0		
		その他		0	0	0		0		
		一般財源		8,000	3,500	3,500		15,000		
実績	事業費			5,356	3,019	-	-	8,375		
	財源内訳	国・道	支出金	0	0			0		
		市	債	0	0			0		
		その他		0	0			0		
		一般財源		5,356	3,019			8,375		
事業費の進捗率				(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)					66.0%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
(全体)										
[19年度] メタボリック周知のための啓発事業において、当初、運動・栄養・休養・禁煙・健診受診など数種類のリーフレット作成を予定していたが、一つのリーフレットにこれらの要点を集約し健康情報リーフレット(携帯版)として効率的に啓発を行うこととした。又この啓発については、健康さっぽろ21の中間評価の時期とも重なり課題を共有するとともに運動しながら普及啓発に努めることができ、予算と実績との差異が生じる結果となった。										
[20年度] 「ウォーキング実践指導ボランティア研修」において、受講者が企画する市民ウォーキング大会で使用する物品購入など予定していたが、実施場所などの関係で各区から物品貸与できたため多少予算との差異が生じた。										